

宮古諸島池間島のトンボ・直翅類

小浜継雄・佐々木健志

はじめに

池間島（沖縄県宮古島市；調査当時は平良市）は、宮古諸島に属する琉球石灰岩でできた平坦な小島で（面積約290ha、最高標高28m）、宮古島の北1.4kmに位置し、宮古島と橋でつながっている。島の中央部に「池間湿原」と呼ばれる面積約37haの県内有数の湿地帯があり、その周辺部に草地や林がある。したがって水生昆虫や湿性草地の昆虫類の好適な生息地と考えられるが、トンボ類を除いてあまり調査されていない。池間島のトンボ類については、小浜（1976）、岸（1986）、砂川・小浜（2003）、焼田・喜多（2008）および青柳（2011）により20種が記録されている。一方、直翅類についてはこれまで3種が記録されているにすぎない（日本直翅類学会、2006）。

筆者らは、沖縄県環境保健部自然保護課による池間湿原実態調査の一環として1999年11月に同島でトンボ類および直翅類の生息調査を行い、トンボ類4科16種、直翅類7科9種を確認したので報告する。

本文に先立ち、現地での調査に協力していただいた島村賢正氏、饒平名里美氏および中田祐三氏に感謝申し上げる。また直翅類を同定していただいた杉本雅志氏にも厚くお礼を申しあげる。

調査方法

調査は1999年11月10日から12日に行った。トンボ類については池間湿原の池や湿地および周辺農耕地・集落地の溜め池をまわり、見つけたトンボを捕虫網で捕獲した。また、ゴムボートを使って池間湿原の池内をまわりながら、ナイロン製ネットで水中のヤゴを採集した。直翅類については、主に湿地周辺の湿性草地でスweepingおよび見つけ採りで採集した。10日には夜間の見つけ採りも行った。

採集・目撃記録

個体数、採集（目撃）日、採集者の順で示した。

トンボ類

イトトンボ科 Coenagrionidae

1. リュウキュウベニイトトンボ *Ceriagrion auranticum ryukyuanum* Asahina

1♂, 11. XI. 1999（小浜）；1♂1♀, 12. XI. 1999（小浜）

2. ムスジイトトンボ *Paracercion melanotum* (Selys)

2♂, 11. XI. 1999（小浜）

池間湿原の開放水域で多数見られた。

3. アオモンイトトンボ *Ischnura senegalensis* (Rambur)
2 ♀, 11. XI. 1999 (小浜) ; 1 ♂, 12. XI. 1999 (小浜)
4. ヒメイトトンボ *Agriocnemis pygmaea* (Rambur)
12♂20♀, 11. XI. 1999 (小浜) ; 1 ♂, 12. XI. 1999 (小浜)
ハイキビなどが密生した湿地で多数観察された。
- サナエトンボ科 Gomphidae
5. タイワンウチワヤンマ *Ictinogomphus pertinax* (Selys)
幼虫 2 exs. 11. XI. 1999 (佐々木)
成虫は見られなかったが、池中から網によるすくい取りで幼虫を採集した。
- ヤンマ科 Aeshnidae
6. ギンヤンマ *Anax parthenope julius* Brauer
多数の成虫を目撃した。
7. トビイロヤンマ *Anaciaeschna jaspidea* (Burmeister)
1 ♂, 10. XI. 1999 (小浜) ; 1 ♂, 12. XI. 1999 (小浜)
ハイキビなどが繁茂する湿地で採集した。個体数は少なかった。
- トンボ科 Libellulidae
8. ハラボソトンボ *Orhtetrum sabina sabina* (Drury)
1 ♂, 11. XI. 1999 (小浜)
9. ショウジョウトンボ *Crocothemis servilia servilia* (Drury)
2 ♂ 1 ♀, 12. XI. 1999 (小浜)
10. コシブトトンボ *Acisoma panorpoides panorpoides* Rambur
1 ♂ 1 ♀, 11. XI. 1999 (小浜) ; 1 ♂, 12. XI. 1999 (小浜)
11. アオビタイトンボ *Brachydiplax chalybea flavovittata* Ris
1 ♂ 2 ♀, 11. XI. 1999 (小浜)
集落近くの溜め池で採集した。この池では他に 1 ♀を目撃し、産卵も観察した。
12. ヒメトンボ *Diplacodes trivialis* (Rambur)
2 ♂ 1 ♀, 11. XI. 1999 (小浜)
13. オキナワチョウトンボ *Rhyothemis variegata imperatrix* Selys
1 ex. (目撃), 11. XI. 1999 ; 1 ex. (目撃), 12. XI. 1999
2 頭目撃しただけで、個体数は少なかった。
14. オオメトンボ *Zyxomma petiolatum* Rambur
1 ♂, 11. XI. 1999 (小浜) ; 1 ♂, 11. XI. 1999 (島村)
池間湿原の湿地帯にあるモクマオウやオオハマボウなどに囲まれた池で、夕刻に♂のなわばり飛翔を観察した。
15. アメイロトンボ *Tholymis tillarga* (Fabricius)
2 ♂, 11. XI. 1999 (小浜)

集落地の溜め池および池間湿原まわりの草地にある小さな池で雄のなわばり飛翔を観察したが、個体数は少なかった。

16. ウスバキトンボ *Pantala flavescens* (Fabricius)

1 ♂, 12. XI. 1999 (小浜)

直翅類

同島新記録種は和名に*を付した。

コロギス科 Gryllacrididae

1. コバネコロギス* *Metriogryllacris magnus* (Matsumura et Shiraki)

1 ♂, 10. XI. 1999 (小浜)

夜間、林縁で採集した。

キリギリス科 Tettigoniidae

2. クビキリギリスの一種* *Euconocephalus* sp.

幼虫 1 ex. 12. XI. 1999 (小浜)

3. ホシササキリ* *Conocephalus maculatus* (Le Guillou)

1 ♀, 12. XI. 1999 (小浜)

4. コバネササキリ *Conocephalus japonicus* (Redtenbacher)

2 ♂ 2 ♀, 11. XI. 1999 (小浜) ; 1 ♂, 12. XI. 1999 (小浜)

湿地のイネ科草地で見られた。

クツワムシ科 Mecopodidae

5. タイワンクツワムシ* *Mecopoda elongata* (Linnaeus)

1 ♂, 10. XI. 1999 (小浜)

ヒバリモドキ科 Trigonidiidae

6. オキナワヒバリモドキ* *Trigonidium pallipes* Stål

10 ♂ 9 ♀, 11. XI. 1999 (小浜) ; 2 ♂ 2 ♀, 12. XI. 1999 (小浜)

ヒシバツタ科 Tetrigidae

7. ミナミハネナガヒシバツタ* *Euparatettix histricus* (Stål)

1 ♂ 1 ♀, 11. XI. 1999 (小浜) ; 1 ♂, 12. XI. 1999 (小浜)

湿地に多く見られた。

オンブバツタ科 Pyrgomorphidae

8. アカハネオンブバツタ* *Atractomorpha sinensis sinensis* Bolívar

2 ♂ 1 ♀, 10. XI. 1999 (小浜)

バツタ科 Acrididae

9. タイワンハネナガイナゴ* *Oxya chinensis* (Thunberg)

4 ♂, 12. XI. 1999 (小浜)

今回の調査は、トンボ類の調査時期としては遅い11月に実施したが、16種（そのうちの2種は目撃のみ）のトンボ類を確認することができた。いずれも池間島から既に記録されている種である。ヒメイトトンボは植物の繁茂した湿地に生息し、その産地は限られているが、池間島に本種は多産するようである。オオメトンボは、国内では奄美諸島以南の南西諸島に広く分布するが、宮古諸島では池間島のみで確認されている。同島から他にアジアイトトンボ *Ischnura asiatica* Brauer（焼田・喜多、2008）、オオギンヤンマ *Anax guttatus* (Burmeister)（焼田・喜多、2008；青柳、2011）、ウミアカトンボ *Macrodiplax cora* (Brauer)（小浜、1976）およびヒメキトンボ *Brachythemis contaminata* (Fabricius)（砂川・小浜、2003）が記録されており、これらを含め池間島から記録されたトンボ類は合計20種になる。

池間湿原は、広い開放水域や木立に囲まれた小さな池、また草に覆われた湿地など多様な水辺環境があり、止水性トンボ類の好適な生息環境となっているので、今後の調査によりトンボの種数は増えると思われる。今回の調査では見つからなかったが、コフキヒメイトトンボ *Ischnura senegalensis* (Rambur) やリュウキュウカトリヤンマ *Gynacantha ryukyuensis* Asahina など湿地にすむトンボ類が生息している可能性があるため、トンボの種数、個体数の多い夏に調査し、同島のトンボ相を明らかにする必要がある。

今回確認した直翅類8種のうち、7種は池間島から新記録である。しかしクビキリギス属は2種おり、今回得られたのは幼虫のみであるため、種名を特定できなかったため、今後確認する必要がある。コバネササキリは湿地の草地に見られ、産地が限られ比較的少ない種であるが（日本直翅類学会、2006）、池間島では個体数が多いようであった。湿原周辺の草地は本種の好適な生息地と考えられる。池間島からは他に、アカアシホソバツタ *Stenocantantops mitschenkoi* (F. Wiemse) とマダラバツタ *Aiolopus thalassinus tamulus* (Fabricius) が記録されており（日本直翅類学会、2006）、これらを含めると同島から10種の直翅類が記録されたことになる。しかし、調査は不十分で、今後の調査により、草地を好む種を中心に直翅類の種数は確実に増えると考えられる。

池間湿原は、もとは内海であったが、1960年代に池間港の浚渫工事の際に捨てられた土砂で湾の開口部が閉ざされ、その後、降雨などによって淡水化が進み、湿原が形成された（平良市役所、1992）。しかし、土砂などの流入があり、水深が浅くなっており、それに伴いヒメガマやイヌクログワイなどの水生植物が繁茂し、開放水域が狭まっている。筆者の一人小浜は、1980年代前半に池間島でトンボ類の調査を行った際に、池間湿原の周辺湿地でトビイロヤンマの夥しい数の羽化殻を確認した。当時と比べると1999年には、湿地周辺の乾燥し、陸地化が進み、ヒメイトトンボやトビイロヤンマの好適な生息地がかなり減少していた。池間湿原は人工的に造られた湿地であるが、このような広い面積の湿地は沖縄県には数少なく、トンボをはじめする水生生物、コバネササキリなど湿地性の生物の生息環境として重要であり、これ以上の陸地化が進まないよう保全対策が必要と考える。

引用文献

青柳 克 (2011) 池間島の水生昆虫類. 琉球の昆虫 (35): 95-100.

平良市役所 (1992) 池間島湖沼湿原環境調査委託業務報告書. 平良市役所・沖縄環境分析センター. 163pp.

岸 一弘 (1986) 安達薫氏採集の南西諸島のトンボ. 神奈川虫報 (79): 23-24.

小浜継雄 (1976) 宮古群島のトンボ類. Tombo 19: 17-20.

日本直翅類学会編 (2006) バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑. 北海道大学出版会.

砂川博秋・小浜継雄 (2003) 宮古島および池間島におけるヒメキトンボの記録. 月刊むし (394): 22-23.

焼田理一郎・喜多英人 (2008) 池間島から未記録のトンボ. 琉球の昆虫 (32): 22.

(小浜: 〒901-22 宜野湾市佐真下28)

(佐々木: 〒903-0129 西原町千原1 琉球大学資料館)